

# 核マホーク配備阻止 集会に結集よう

勝利争闘ジェット塚二 / 砕粉革行・調臨

# 6.15



~~~~~

「トマホーク六月配備」は、反動中曽根の軍事大国化・改憲攻撃の最たるものです。労働者人民の反戦、反核意識をたたくつぶし、核戦争へと道を開く恐れべき事態の進行のなかで三里塚二期阻止と結合させた反戦・反核闘争の大高揚を実現し、トマホーク配備を阻止しようではありませんか。そのために「核トマホーク配備反対・三里塚二期阻止・中曽根内閣打倒・6・15集会」への圧倒的結集を呼びかけるものです。

## 欧州で反核闘争の巨大なうねり

アメリカ帝国主義・レーガンは、六月以降、核巡航ミサイル・トマホークの米太平洋艦隊への配備を決定しました。トマホークは、小型ながらコンピュータでレダーをさげ、超低空を三千キロも飛ぶことができ、しかも威力は一発で広島型原爆の十六倍、攻撃目標を正確に破壊できる恐るべき核兵器です。

米帝は、すでに、中距離核ミサイルIIバージョンGIIを百八基、さらに、GLCM（地上発射の巡航核ミサイル）を四百六十四基もヨーロッパ・NATO各国へ強行配備を開始しています。しかし、「ソ連に近いところから先制・奇襲攻撃がかけられ、アメリカから遠いところで核戦争を行う」とのレーガンの「前方展開戦略」は、当然にもヨーロッパ各国人民の反核運動に火をつけ、六月一日にはオランダが四八基のミサイル配備拒否を決定したように、ドイツ・イギリスをはじめ全ヨーロッパをまきこむ30万人〜60万人という巨大な反戦・反核闘争の高揚がかけられています。

「トマホーク歓迎」の中曽根の狙いは日本核武装のところで中曽根は、核戦争の危機を促進するトマホークの配備を大歓迎し、自らも核武装しようとしています。五月十八日、中曽根は衆院外務委員会において、「①有事の際、公海上で核トマホーク搭載の米艦艇と自衛隊の艦艇が共同対処行動を行うことは、非核三原則を

~~~~~

六月二日、中曽根は先進国首脳会議（ロンドンサミット）での最大の焦点である「対ソ政策」について触れ「ソ連に対する西側陣営の結束強化と安全保障最重視の立場からも、ヨーロッパへの米新型核ミサイル、バージョンGII、巡航ミサイル配備計画を進めるべきだ」と述べ、ヨーロッパ各国人民の反核闘争に真向から敵対する発言を行いました。

六月四日、中曽根は日本の非核三原則に「使わせず」を加え、核保有国との核不使用条約でこれを保障し、非核国家宣言を行うよう求めた田・社民連代表に対し、「核兵器の使用は核保有国の勝手である」と答えました。

これら中曽根の一連の反動発言は、日本の核武装に焦点が合わされていることが明らかであり、われわれは、今こそ反戦・反核をかかげ闘いの先頭にたたなければなりません。

## 反戦反核ー三里塚ー国鉄決戦の大爆発で中曽根を打倒しよう

中曽根は、米帝・レーガンとの同盟関係をより強化し、朝鮮・アジアにおける権益を独自の軍事力で守るために、すさまじい軍拡をおしすすめています。

軍事費の「GNP比一%枠年度内突破」をはじめ、軍事基地の強化、そしてトマホーク搭載の米艦艇日本寄港こそ、日本の労働者人民の反核意識をとりのぞき、改憲、核武装化へ道を開くものです。中曽根は、三里塚二期着工を強行するとともに、「人減らし合理化」の「国鉄」攻撃をより激化させてくるでしょう。

それは、三里塚が反戦・反核の砦、全国の住民闘争の結集軸であり、国鉄労働運動が日本の労働運動の中軸として、中曽根を打倒し得る力をもっているからにはかなりません。

中曽根の尖兵となつて「反核」運動を反ソ反共デマキャンペーンにすりかえ、三里塚破壊に血道をあげ、国鉄労働運動破壊の尖先となつている勤労「本部」革マルを一扫し、六月トマホーク配備阻止、三里塚二期阻止、中曽根打倒にむけ「6・15集会」に全力で決起しようではありませんか。

核兵器「使う」「使わぬ」  
核保有国の勝手  
6/5日朝刊  
首相発言

欧州への核配備進めよ

首相、対ソ政策で三本柱

戦争への道つき  
進む反動中曽根  
内閣を打倒しよう

おかすものではなく、認められる、②公海上なら核トマホーク搭載艦艇と自衛隊との共同訓練の実施はありうる」といいきりました。